

皇居周辺をウォーキングしてみて、幾つかの銅像が気に掛かっていた。さも宮城を守護するかの如く四囲に配されている幾つかの銅像を見掛け、何時かそれらを確認したいと念じてきた。先日（平日）休みを貰って靖国神社から皇居外苑までを時計回りに確認・写真撮影をした。

因みに、ホームページを覗いてみると、奇抜な人がいるもので都内の銅像を調査してくれている。それらによれば、千代田区には 30 個の人物銅像がある。その内 10 個余りは私立大学や病院等の創設者や功労者である。何故、そうなのか？

また、「〇〇の神様」や「〇〇の父」なる銅像も幾つかある。それを列記すれば、

- ① 憲政の神様 尾崎行雄 憲政記念館
- ② 砂防の神様 赤木正雄 砂防会館
- ③ 鉄道の父 井上勝 JR 東京駅丸の内口
- ④ 日本資本主義の父 渋沢栄一 大手町 常盤橋公園

#### 閑話休題

宮城守護の如くに配置されている銅像を概観する。靖国神社から時計回りに。

- ① 大村益次郎 靖国神社（明治 26 年建立）



長州出身、医師、洋学者、兵学者、戊辰戦争時兵站参謀

明治 2 年兵部省兵部大輔（次官）であり、兵学寮、造兵廠を創設日本陸軍の創始者或いは陸軍建設の祖と看做されている。京都三条にて刺客に襲われ重傷を負い、2 ヶ月後死亡享年 46 歳。

- ② 大山巖 九段坂公園（田安門前） 大正 5 年建立



薩摩出身 西郷隆盛の従兄弟 陸軍元帥陸軍大将、陸軍大臣。弥助砲の開発者 西南戦争政府軍として参加 日露戦争時の満州軍総司令官 総司令部内での

「兒玉さん、今日もどこかで戦（ゆっさ）がごわすか」と言ったとエピソードは有名である。会津藩士の娘であった山川捨松との結婚も有名。

③ 品川弥二郎 九段坂公園（田安門前） 明治 40 年建立



長州藩士（萩）薩長同盟の連絡役、戊辰戦争時奥羽鎮撫総督参謀 明治維新後内務少輔等を歴任内務大臣時引責辞職、国民協会創設 戊辰戦争時の「トコトンヤレ節」（「宮さん宮さん」）の作詞者

④ 北白川宮能久親王 北の丸公園国立近代美術館工芸館横（乾門向い） 明治 36 年建立



伏見宮家の親王、出家得度し、慶応 3 年には輪王寺宮公現法親王、奥羽列藩同盟の盟主となるも、新政府軍に降伏後は京都にて蟄居、後還俗北白川宮家を相続、陸軍に入営明治 25 年陸軍中將、4 師団長の後近衛師団長として台湾征討に出征台南にて薨去 皇族として初の戦没者、陸軍大将に任ぜられ国葬

尚、現工芸館は旧近衛師団司令部（明治 43 年建設、ゴシック様式の洋風煉瓦造り、重要文化財）であるが、内部は二階への階段を除き改装され往時の面影はない。

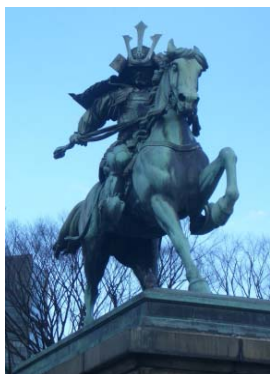
⑤ 和氣清麻呂 地下鉄竹橋駅気象庁前 昭和 15 年建立



女帝孝謙天皇（称徳天皇）による弓削道鏡の取り立てに絡んだ、宇佐

八幡宮における神託事件で天皇の逆鱗に触れ、改名、大隅国へ遠島。道鏡失脚後、名誉回復。桓武朝で実務官僚として重用されて高官となり、平安遷都の建設に進言、民部卿として活躍。孝明天皇は和氣清麻呂の功績を讃えて「護王大明神」の神号を贈った。故事に因み、護王神社・和氣神社などでは狛犬の代わりに「狛猪」が置かれている。戦前の「皇国史観」の元では楠木正成などとならぶ勤皇の忠臣と見なされ、紙幣（ろ拾圓券）に肖像（想像）が印刷された。

⑥ 楠正成 皇居外苑 明治 30 年建立



後醍醐天皇の挙兵に呼応して下赤坂城にて挙兵（赤坂城の戦い）した。

後醍醐天皇隠岐島への流罪間にも、護良親王とともに、河内国の赤坂城や金剛山中腹に築いた山城、千早城に籠城してゲリラ戦法を駆使して幕府の大軍を相手に奮戦、足利幕府倒幕に功あり（元弘の乱）。後醍醐天皇の建武の新政では、河内・和泉の守護。爾後南朝方となり、湊川の戦い（兵庫県神戸市）で足利直義の軍と戦い敗れて、死す。明治以降南朝正統論により、大楠公と称せられ、諸葛亮孔明にも比せられる天才軍略家とされている。「忠君愛国」「滅私奉公」「七生報国」が楠公精神と言われる。

疑問

① 皇国史観による忠臣の代表としての和氣清麻呂と大楠公こと楠正成は当然選考されて良い。皇族の戦没者である北白川宮も皇族であり、死して皇国守護されるであろうから、然りとしよう。大村益次郎は宮城守護と言うより招魂社であった靖国神社に相応しい人物と言う趣旨か、大山巖は日露戦争勝利の立役者、品川弥二郎も維新の元勳ではあるが、相応しさと言う観点からはどうだろうか。

② 配置の理由

大村益次郎と北白川宮はそれに相応しい場所であろう。他は不明。

③ 各像の向きに関する疑問

楠正成や和氣清麻呂像が宮城守護等であるならば、皇居を向くか、皇居を背にすべきだろうが、然るに必ずしもそうなっていない。正成公は桜田門方向、和氣清麻呂公は、大手門等の方向を向いておられる。北白川宮、大山巖、品川弥二郎は乾門や田安門等を背にしているので、守護しているといっても可笑しくはない。大村益次郎が神社の向きに合致しているのは当然だろう。

何れにしる、如何なる大局観に基づき人物を選定し、配置し、夫々の方向を向かせたのであろうか。どなたか御教示願えれば幸甚である。